

## 教室便り

OGの皆様、お元気でお過ごしでしょうか。以下、2000年4月現在の近況をご報告いたします。

本年3月、地理学コース初の学部生（旧・地理学科生を含み20名）が卒業しました。彼女たちは、2年生の夏に、人文科学科4コース（哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理学、総合人文科学）の中から、積極的に地理を選び、進学した人達です。卒論では、皆、楽しそうに個々のテーマ（本号「卒論要旨」参照）を深めて卒業しました。今後の活躍が楽しみです。就職・進学等の進路については、別途、ニューズレターをご覧ください。なお、4月現在の在籍生は、3年が15名、同4年（過年度生を含む）が16名です。

大学院博士前期課程では、3月に1名が修了しました。旧・修士課程（人文科学研究科）は、3年前に博士前期課程（人間文化研究科）に改組されています。この人間文化研究科は、旧・理学研究科および旧・家政学研究科と併せ、3研究科を再編成したものです。地理学関連の院生は、発達社会科学専攻の生活・開発科学系という組織のうち、地理環境学および開発・ジェンダー論の2コースいずれかに属します。修了者の倉光ミナ子さんは、開発・ジェンダー論の所属です（本号「修論要旨」参照）。彼女は、博士後期課程に進学しました。なお、4月現在の在籍生は、1年が4名、同2年（過年度生を含む）が9名です。

博士後期課程は名称の上では人間文化研究科のままですが、ここ数年の改組後、組織・専攻名は以前と比べ大幅に変化しています（詳細は次の田宮報告に譲ります）。また、地理学関係の院生の所属専攻は様々です。ネパール研究で成果を挙げている森本泉さんは3月で満期退学し、引き続き日本学術振興会特別研究員として精力的に調査・研究を続けてます。なお、在籍生は、1年が1名、2年が1名、3年（過年度生を含む）が9名です。

教官では、2年間、助手を務めた影山穂波さんが、学部助手ポスト削減に伴い、3月末で退職しました。最初から分かっていたこととはいえ、学内外の情勢により助手ポストが消えることは、本人だけでなく教室にとって大きな痛手です。彼女

は、4月から本学の研究生となる一方、明治学院大学、駒澤大学、東京外国語大学の非常勤講師として頑張っています（本号「論文」参照）。影山さんが抜けたことで、現在、教授3名（内藤、田宮、石塚）、助教授5名（栗原、熊谷、杉谷、水野、内田）、助手1名（石川）の9名が学部・大学院教育に従事しています。なお、このうち2名は大学院（博士後期）の専任です（内田／国際日本学専攻、石川／複合領域科学専攻）。内田は学部を兼任しています。一方、石川助手は大学院業務を専らとしますが、教室を陰で支えています。

教室事務（事務補佐員）は昨年4月より、中臺（寺嶋）由佳里さんが担当しています。彼女は、東京都立大学理学部地理学科の卒業生で、地理学の研究者です（本号「論文」参照）。森林インストラクター他、自然保護に関する様々な活動も行っています。彼女のような人物が教室運営に加わっていることは、大いに力強いことです。また、4月以降の教室主任は、昨年度までの栗原助教授から杉谷助教授にバトンタッチされています。

その他、田宮教授は附属中学校校長に再任され、引き続き併任しています。大学との兼務は本人に負担が大きく、教室運営にもマイナスとされますが、お茶大全体のためには「余人をもって替えがたい」と考えています。また、熊谷助教授が本年9月より1年間、JICA長期専門家としてパプアニューギニアに赴任の予定です。帰国後の成果が楽しみです。そして、昨年4月より、内田は、京都にある国立国際日本文化研究センター助教授を併任しています。

最後に、昨年3月に定年退官された千歳壽一先生が、本年4月より立正大学地球環境学部教授として「現場復帰」されたことを付け加えます。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

国立大学の法人化ほか、お茶大を取り巻く「環境問題」は山積みですが、何とか乗り切るべく、スタッフは総力を挙げています。これまで以上に、OGの皆様の、他方面からのご支援を宜しくお願いいたします。（内田忠賢）

## 1999年度大学院

### 1. 博士前期課程

在籍学生数1年生5名、2年生2名（ただし、2名とも年度途中から休学）

地理学教室教官は、発達社会科学専攻、生活・開発学系に所属し、および開発ジェンダー論コースの授業を担当している。

○担当コース、授業科目名は以下の通りである。

内藤 博夫（地理環境学コース）開講せず  
田宮 兵衛（地理環境学コース）自然環境論  
石塚 道子（開発・ジェンダー論コース）開発政策論・同演習

栗原 尚子（地理環境学コース）地域経済論  
杉谷 隆（地理環境学コース）環境認識論  
熊谷 圭知（開発・ジェンダー論コース）開発地域文化論・同演習

内田 忠賢（地理環境学コース）環境文化論  
水野 勲（地理環境学コース）地理情報論

○生活・開発学系における委員等の分担は下記の通りである。

田宮 兵衛（研究科代議員、地理環境学コース長、学系教務委員）

熊谷 圭知（博士前期課程入試委員）

内田 忠賢（発達社会科学論世話人）

### 2. 博士後期課程

博士後期課程には下記の5専攻があり、地理学教室関係教官の分属は下記の通りである。このうち内田助教授は原籍を国際日本学専攻日本分析論講座に置き授業・学生指導を行っている。石川助手は原籍を複合領域科学専攻に置き、研究を本務とする。他は文教育学部に原籍を置き、博士後期課程の授業・学生指導を兼担として行っている。

○所属専攻は以下の通りである。

比較社会文化学専攻（水野・熊谷：両者とも併任）

国際日本学専攻（内田）

人間発達科学専攻（水野・熊谷）

人間環境科学専攻（杉谷）

複合領域科学専攻（田宮・石川）

なお、2000年度は石塚教授が比較社会文化学専攻の兼担となり、水野助教授の専攻併任は解除される。

○後期課程における委員会については、下記がそ

れぞれの属する専攻から委任されている。

田宮 兵衛（雑誌編集委員）

内田 忠賢（入試委員）

水野 勲（入試委員）

（文責：田宮兵衛）

## 1999年度 地理学セミナー

第1回 1999年6月30日（水）

影山穂波（助手）「同潤会大塚女子アパートにおいて語られる「職業婦人」の居住」

第2回 1999年9月29日（水）

内田忠賢（助教授）「高松平野におけるムラの空間構成」

新名謙二（舞踊教育学コース講師）「首都圏におけるフィットネスクラブの分布について」

第3回 1999年10月15日（金）

佐藤朋子（M1）「日本海低気圧と秋田の降水に関する総観気候学的研究」

内田忠賢（助教授）「神楽坂の怪異：妖怪の歴史地理学」

熊谷圭知（助教授）「第三世界地域研究における調査者の「位置性」をめぐる——ポートモレスビーにおける権力の「都市美化」運動と移住者集落住民——」

第4回 1999年11月16日（火）

永田玲奈（M1）「エルニーニョと日本の大雨」

寄藤晶子（M1）「公営ギャンブルと地域社会」

森本 泉（D3）「国際ツーリズムにおけるシャングリラ・イメージの構築——ネパールを事例に——」

水野 勲（助教授）「交通網の時空間収束と都市集積のモデル研究」

第5回 2000年3月17日（金）

倉光ミナ子（M2）「サモアにおける女性の「参加」とその背景——女性省のソーイングプログラムを中心に——」

西 律子（D2）「高齢者の居住空間への主観的側面からのアプローチ——ライフヒストリーの有効性と課題——」

## 1999年度巡検

長期巡検 担当：田宮・石塚・内田

1999年8月3日～8月7日 高知県本山町巡検

短期巡検

1999年6月25日 国土地理院・気象研究所（内田・田宮）

1999年7月4日 佃島・江戸博（内田）

1999年10月24日 臨海副都心（内田）

1999年11月7日 奥多摩（中基・内田）

1999年11月21日 秩父（田宮）：お茶の水地理学会「気軽にエクスカッション」

2000年1月6日～1月8日 高尾山（田宮）

2000年1月29日 多摩ニュータウン（石崎・水野）＊石崎先生は都立大助手・本学非常勤講師

2000年2月10日 上野（栗原）

2000年2月12日～2月15日 越前大野（杉谷）

2000年2月13日 川越（内田）

## 教員スタッフの活動

（締切日までに原稿が到着したもののみ掲載）

### 田宮 兵衛

1999年度田宮兵衛作文記録

中学校長として3年目の記録である。

凡例：①題名、②掲載誌名（巻号）、発行者、頁（0は頁外）、③発行年月日

1. ①まえがき  
②お茶の水女子大学附属中学校研究紀要、第28集、0。  
③1999.7.1.
2. ①「帰国子女」教育について  
②お茶の水女子大学附属中学校研究紀要、第28集、1-6。  
③1999.7.1.
3. ①自主・自律・広い視野  
②鏡水会だより[年報]、第3号、鏡水会、1-2。  
③1999.7.9.
4. ①学校教育と保護者の役割  
②お茶の水中学PTAだより、第85号、お茶の水女子大学附属中学校PTA会長、1-2。  
③1999.7.12.

5. ①生徒祭によせて

②お茶中生徒祭パンフレット、お茶の水女子大学附属中学校、2。

③1999.9.25.

6. ①まえがき

②文部省研究開発学校指定研究発表会紀要“児童・生徒が自分にとって「意味ある学びを」創出する”教育課程の開発——学習内容・方法における小中連携と中学校における履修方法の改善を通して——（第3年次）、お茶の水女子大学附属小学校／お茶の水女子大学附属中学校、0。

③1999.10.20.

7. ①MRTU

②お茶の水、第51号、お茶の水女子大学附属中学校生徒会、4-7。

③2000.3.17.

8. ①「褒める」

②お茶の水中学PTAだより、第86号、お茶の水女子大学附属中学校PTA会長、1。

③2000.3.10.

### 石塚 道子

【論文】

「カリブ海地域の漁業」山本忠義・真道重明編『世界の漁業：第二編地域レベルの動向』海外漁業協力団p.517-531,1999年

「第三世界の新たな地域像を求めて——ジェンダー視点からの記述の重要性——」熊谷圭知編『第三世界の地域像の再構築と地誌記述の革新』文部省科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書、p.135-147,1999年

「世界化する都市とカリブ海系移民」五十嵐武士編『アメリカの多民族体制』東京大学出版会、p.269-292,1999年、

【口頭発表】

「女性の地域活動と行政」日本女性学会1999年11月28日

「カリブ海地域の植民地主義と文化人類学」京大大学人文科学研究所共同研究：文化人類学と植民地主義、2000年3月6日

### 熊谷 圭知

【論文】

（印刷中）

「自然との「調和」でもなく、外部への「従属」でもなく——パプアニューギニア、ブラックウォーターの人々の「歴史」と「空間」——」。熊谷圭知・西川大二郎編『ローカルからグローバルへ——地域研究者からの発信——』（仮題）古今書院

[書評]

(1999年11月)

「ジャカルタの「熱さ」をどう語るか——『アジアの大都市：ジャカルタ』への誘い——」。大阪市立大学経済研究所「アジアの大都市」ニュースレター、No.8, pp.2-3.

[学会報告]

(1999年11月19日)

第三世界の地域研究と地理学・地誌・フィールドワーク——私のパプアニューギニア調査研究の反省的考察を通じて——（人文地理学研連シンポジウム、奈良大）

(1999年11月21日)

第三世界地域研究における調査者の「位置性」をめぐって——ポートモレスビーにおける権力の「都市美化」運動と移住者集落住民——（人文地理学会大会、奈良大）

水 野 勲

[その他]

「地理学がよくわかるキーワード50」（分担執筆）『AERAムック：地理学がわかる』朝日新聞社、1999年3月。

「地理学を楽しむための50冊」（分担執筆）『AERAムック：地理学がわかる』朝日新聞社、1999年3月。

[口頭発表]

「交通網の時空間収束と都市集積のモデル研究」人文地理学会（奈良大学）、1999年11月。

内 田 忠 賢

論文

「ムラの空間構成：高松平野の民俗的ランドマーク調査」『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ：弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告』高松市教育委員会、1999年3月

「高松平野におけるムラの空間構成」同上

「都市の新しい祭りと民俗学：高知「よさこい祭り」を手掛かりに」『日本民俗学』220号、

1999年11月

「レジャーランドの物語：高度経済成長期の船橋ヘルスセンター」現代風俗学研究6号、2000年3月

書評

八木康幸著『民俗村落の空間構造』、京都民俗18号、1999年12月

発表

「高松平野におけるムラの空間構成」日本地理学会1999年度秋期学術大会（徳島大学）、10月  
「神楽坂の怪異：妖怪の歴史地理学」1999年度人文地理学会大会（奈良大学）、11月

「歴史空間としての京都」JTB講演会（朝日カルチャーセンター・新宿）、10月

その他

『日本民俗大辞典（上・下）』（分担執筆）吉川弘文館、1999年11月（上）、2000年2月（下）

影 山 穂 波

[論文]

神谷浩夫・影山穂波・木下禮子共著（1999）「東京大都市圏における独身女性の居住地選択——定性的分析による考察——」『地理学報告』第9巻、17-32頁。

[口頭発表]

「同潤会大塚女子アパートが語る单身女性の居住空間」1999年7月10日 経済地理学会 関東支部例会。（於 お茶の水女子大学）

石 川 百合子

①学術論文

石川百合子：歴史的な酸性雨観測データとなる1935～1961年の気象要覧「降水分析」の記録について、天気、47、75-81（2000）。

②口頭発表

石川百合子：1935-1961年の神戸海洋気象台における降水中の非海塩性硫酸イオン濃度、日本地理学会春季学術大会、東京、1999年3月。

③その他

平成11年度科学研究費補助金（奨励研究（A））「歴史的な酸性雨観測データの空間的・時間的変動に関する研究」平成11年9月 スウェーデンにおける酸性雨研究の現地調査

## 編集後記

◇前号の「編集後記」では、少し気弱なことを書きましたが、OGの皆さんのバックアップにより、従来どおりの編集方針を踏襲し、本号を作成しました。お陰様で、力作の論文6本、調査報告、資料紹介、随想、書評・紹介が集まり、バラエティあふれる雑誌ができました。ありがとうございました。次号も、奮ってご執筆、ご投稿下さい。

◇本号も、学会の財政難のため、投稿者にはFD入稿をお願いしました。また、昨年同様、開成出版に編集の一部と印刷を依頼しました。ご無理をお願いした執筆者と開成出版編集部の黒田武さんに、心よりお礼申し上げます。

◇ところで、お茶大は学部・大学院改組に続き、国立大学法人化の流れや女子大堅持か否かの議論の真ただ中にあります。かつてのような、名門大学のブランドに安住できない状況です。お茶大が生き残るため、大学全体を大きく変える、いや、変わらざるをえない現状なのです。地理学教室のスタッフも力を振り絞っているのですが、やはりOGの皆さんのバックアップが必要です。たとえば、これまで以上に優秀な学生を送り込んで下さり、また、就職等で後輩をご支援下さるよう、僭越ながらお願い申し上げます。 [内田]

本号編集：内田忠賢・水野 勲